

# 京都教区時報

特集—京都教区創立記念日  
小教区の頁—草津教会

第76号

発行所  
京都市中京区河原町三条  
カトリック京都司教区  
広報室 (Tel 211-3768)  
編集責任者 村上透磨  
編集部 教理センター  
田中司教認可



## 教区の一致、今ここに

### 京都教区創立記念日

「彼らが一つになりますように」とのキリストの切実な願いは、最後の晩餐の高間から今も私たちの耳にひびきわたる。「キリストにおいて、みな一つになろう」という歌声は、このキリストの祈りに応えた私たちの決意のあらわれである。

11月23日12時より、この招きの祈りに応えるべく教区一致の集いが、洛星高校講堂において行われた。

一致のしるしであるミサ、特に司教を中心に教区に関わっている司祭の共同司式のミサの中で、さらに一致を示す決意表明と、ビジョン宣言がなされた。

「教区は社会とともに歩むべきである」と考える私たちは、大目標として、

「社会とともに歩む教会」というテーマを選んだ。そのために、社会との関わりを正し、自己自身と、教会の刷新をめざそうと思う。

神と世界の前に平伏し、教会も信徒個人も自分を改めながら、社会とともに、社会のうちに生きていこうと思ふ。

「改心して、行つて、全世界に、神の福音を伝えて来なさい」「その世界の中にあって、塩となり光となきなさい」

「社会の中にすでに生き働き給う主」を見出しなさい。あなた方の目は特に、「この小さき人々」と呼ばれる人々に向けられるでしょう。そこにおられるキリストを見つめるでしょう。

4時半すぎ、司教の声が講堂一杯にひびきわたった。行きましょう主の平和のうち、私たちは社会の中に遣わされるのだ。福音をたずさえて、さあ出かけよう。

# ひとつになろう、キリストの中にみな

## — 教区創立記念日

11月23日、12時20分、洛星高校講堂に約千名の信徒による教区一致の集いが、「ひとつになろう」という歌とともに始められた。この集いは、二部からなり、第一部は北白川教会の明石氏の総合司会により、今大会準備委員長である西野師の開会挨拶にはじまり、教区内九グループの紹介が行われた。

紹介は京都北部をかきりに、京都南部、青年、諸活動、三重、奈良、滋賀、修女連、司祭修道士等によるものであった。その発表の方法はまちまちで、京都北部の大イラスト地図を使った紹介は、その準備のなみなみならぬ様子がうかがわれたし、五つのグループのスライドによるもの、またグループの大きさや、かかえている事情のために、ただ報告による紹介のグループもあった。さらに京都北部と滋賀地区の踊りの披露もあった。

第一部の目的は、「一致の第一歩である互いに知りあう」ということであつたらう。ここでそれらの一々を紹介することが出来ないのが残念である。しかし今後互いに知り合うためには、時報の小教区の真を高重視しながら、各方面からの記事の投稿を通して、時報が交流の手段になることを願う。さて第二部は、一致の最も中心であるミサが行われ、その中で、過去二年余り準備してきたビジョンの宣言が田中司教によってなされた。九つのグループの決

意表明に答えるかの様になされた宣言文は、前文、本文、結びからなるもので、本文の大切さもさることながら、結びの部分を見のがしてはならないと思う。ミサは「新しい歌を主に歌え」という刷新の心にふさわしく、新しい心を持つて主を賛美することから始まった。

第一朗読は、エゼキエル36章24〜28節、



改心のテーマが読まれる。そして、それを導かれるのは、聖霊の御自身であることと思わせるかの様に、答唱は、「あなたはいぶきを受け」が歌われ、第二朗読は、エフェソ3章2〜12節、異邦人の召出しのテーマが読まれる。これは福音宣教、つまり世界にキリストを告げ、その中で働いておられる主を見出していく事により果されるだろう。

福音は、マタイ25章31〜45節、「この小さい人にした事は私にしたのだ」と言

うことは耳を傾ける。私たちは、社会の中に「キリストが生き働き給う」ことは知っている。しかし、いろんな意味で助けを必要としている人々の中に、キリストが特に生きておられる事を黙想する。田中司教の説教に続いて、各グループの決意表明が夫々の代表によってなされた。これは言うまでもなく、それぞれの共同祈願であり、信仰告白でもある。

続いて司教はビジョン宣言文を力強く読みあげた。六つのテーマからなるビジョン本文はすでに配布されていたが、宣言文は決意表明が終わると同時に、侍者によって配布された。それには、中心課題としてあげた、「社会との関わり」「自己刷新」のテーマを中心に、他のテーマをいわば縦に見る見方がなされていると考えてよいのではないか。具体化への動きに際しては、宣言文を考慮に入れながら、本文の六つのテーマを参考にして進めていけばよいのではないかと。

その後ミサは、同じ食卓に連なる感謝の祭儀に入ってしまったわけであるが、共同司式に参加した司祭50名、参列した全信徒と心を合わせ、主における一致の中に、4時半すぎ、祝福のうちに散会。始め計画された自由交流も、時間の関係から後片付をしながらということとで終わった。出てみると、小雨が降り始めており、これを恵みの雨と受けとめて、希望に満ちた一歩を踏みはじめたものである。

入口には、帰りのタクシーを待つ子羊会の人々が目に写る。この人々もまた出かけていくのだ、小さい人々を求めて。

# キリスト教会の歴史 全10巻

教会一致運動に力をつくすジャカブック社企画作品 日本語版監修 上智大学教授ヨゼフ・フィルハウス A4判 各巻5,500円千300

全巻内容 1983年完結予定

- ①初代のキリスト信者 好評発売中
- ②黄金時代 好評発売中
- ③古代世界の終わり
- ④蛮族への道
- ⑤中世の明暗

- ⑥近代人の誕生
- ⑦プロテスタントとカトリックの改革
- ⑧革命の時代
- ⑨教会——戦争と国家のはざま
- ⑩わたしたちの時代

〒661 尼崎市東園田町9-15-13 Tel(06)491-1061 女子パウロ会

### 第三回京都ウォーカーソン 11月3日

アフリカの飢えている兄弟のために



主催 京都教区時報編集部  
協催 京都南信協(壮年部・婦人部)  
修女連京都支部 子羊会  
京都高校生会

前日大雨。それに恐縮してか、時々、お陽さまも顔を出さず曇り空のもと、三七七名が参加して行われた。今年はコースも変わり、三条から加茂川沿いに上賀茂、右岸から左岸、出町柳まで折返し、約十二キロを走破した。今年の子羊会員の参加も増え、松葉杖をひきひき参加してくれた、健ちゃんこと久保田建一郎さんの歩く姿は人々の心を打ったと思う。南信協、修女連の方々の協力に加え、今年は高校生グループが、ゴールの出町柳の河原で歌やゲームで楽しいしめくりをしてくれた。参加者37名、募金総額はまだ不明であるが、昨年の150万を大巾に上まわるものと期待している。主催者側の手違いから多少御迷惑をおかけしたが、参加者、協力者、スポンサーの御協力により、無事成功のうちに終ったことを主催者として感謝している。「この小さき人にしたことは私にしてくれたのである。」

### 京都南部高校生会 夏期キャンプ 8月17日～22日



今年の春の合宿のテーマは「ボランティア」ということで、夏の合宿では、それを実践する計画をたてた。

はじめの計画は、高松の青松園に行くつもりであったが、水不足のため受け入れられないとのこと。しかし有意味な合宿をしたいとの願いから、大島の自治会の人に相談し、長島の愛生園に頼んでみることにしたが、ここも数年前の不祥事からワークキャンプは受け入れてはいないとのこと。ボランティア活動のむずかしさを痛感した。幸い招かれることになり、行ってみると快く迎えられ、帰りには、来年もどうぞといわれ喜んでいる。これもいっしょうけんめいに行った成果であろう。作業は九時から三時までかなりきびしいものだった。大島の信徒会から手紙をもらい、夏には来てもらえなかったが、冬には遊びに来て下さいとのこと。何人かが遊びに行く計画をたてているようである。その時は献血手帳も持っていく予定である。ほんの少しの経験で現状を知ったなどというのはおこがましいが、ふだんのつき合いを多くしながら、ややもすれば忘れ

### 亀岡カトリック教会献堂式 10月7日



がちなこのような人々との交流を保ちながら、少しでも自分達にも、人々にも、この現状を知ってもらえるようにしたいと願っている。

尚、参加総数53名。前半後半の二グループに分け8月17日より22日まで行った。亀岡市の都市計画の波は、市街の中心にあつた亀岡教会にも及び、ついに立退きを余儀なくされたが、前任の上田師をはじめ信徒の努力が実り、国道九号線から、亀岡池田に抜ける府道約百メートルの(室町小屋甥町)に市から代替地を提供され、今年4月から工事開始、10月7日田中・古屋両司教をはじめ多数の司教の共同司式のもと盛大に献堂式が行われた。亀岡市は京都・大阪を結ぶ都市として最近、とみに発達してきた都市である。信徒数こそ、そう多くはないが、将来を期待できる都市として、福音の宣教のよき実りが熱望される。ロザリオの聖母に捧げられたモダンなこの教会は、新しい主任司祭・松田師のもと、宗教と文化の拠点としてますます発展するようにとの願いが市当局代表者祝詞の中にもあつた。よき実りを祈り求めよう。

### 結婚への召し出し

キリスト者にとって結婚は単に社会的なものだけではなく、正に超自然的な召し出しである。この偉大な召し出しの手伝いを使命とする結婚互助会では、9月23日、西陣教会で「ばらの集い」を催した。集う未婚者、男性二四名、女性一九名。遠くは伊勢からの参加もあり、和気あいあいの中で意義ある一日をすごした。早くも数組のカップルが交際を始めており、その成果が期待される。

### 古屋司教入院

10月19日、朝、古屋司教様が、心筋梗塞で倒れられ、京都市内の病院に入院された報は、多くの人々を驚かせたことと思う。幸い、快方に向かわれ、食事も腰かけてできるようになり、部屋で少し歩けるようになったとのことである。ただし、今しばらく面会謝絶の禁を絶対に守り一日も早い回復を祈っていただいた

製菓材料・舶来食品  
和洋酒・修道院製クッキー  
ミサ用ブドウ酒

# タキノ

〒604 京都市中京区錦小路通鳥丸東入  
電話 (221) 0976-7

司教の足どり



九月〜十一月

9月

16日 国際宗教同志会委員会(於・三条)

17日 A 師来訪

18日 亀岡教会建築状況視察

20日 ⑧古屋司教叙階30周年記念ミサ(三条) CBSサンデー教区の集い(奈良)

21日 教区邦人司祭月例会。神学生養成担当者会。司祭評常任委

22日 スペインより知人来訪。ビジョン作成会の合宿(北白川)

23日 (司教叙階5周年) 合宿続き

24日 ギャノン師SJ(シカゴヨラ大教授) 来泊

26日 ホフマンエミ子見舞(国立病院)

27日 ⑨長岡教会15周年堅信ミサ。こひつじの苑・太陽の園合同運動会に臨席。園部・亀岡教会訪問

28日 ギャノン師講演会(NCC・京都教区共催)

30日 母と老司教の見舞(坂出・聖マルチン病院)

10月

1日 神の園・高田・古川両氏と面談

2日 司教協諸宗教委の正式初会(東京)

3日 神学院司教常任委(東京)

4日 ⑩河原町ミサ 結婚互助会 衣笠墓地委員会 学生指導担当者会(北白川)

7日 亀岡教会移転新築祝別式

8日 ウイチタ聖ヨゼフの元総長来訪

10日 ⑪東寺、聖護院両本山見学

11日 ⑫河原町ミサ 信徒養成合宿に挨拶。市内北部隣接教会合同運動会に参加

12日 司教協法人担当K氏来訪

13日 フィリピンOPシスター来訪

14日 信愛ミサ

15日 小さき人「T」氏来訪。フェルセツカー師訪洛

16日 司教協機構検討委(大阪) 甲山草参

18日 ⑬大阪釜ヶ崎見学。同「旅路の里」祝別式に参加

19日 富田病院入院

19日 古屋司教急病(心筋硬塞)にて故ビエール・カリエ師追悼ミサ(ウイアートル初代管区長)

19日 ⑭教区邦人司祭懇想会(指導)

20日 山田経三師SJ

20日 洛星30周年ウイアートル会10周年ミサ

24日 古屋司教に「病人の塗油の秘跡」

24日 国際宗教同志会委員会。幼きイエズス会新総長と面談。四日市教会役員と夕食会

25日 ⑮四日市教会堅信ミサ。桑名教会堅信ミサ

26日 司祭評定例会議

27日 国際宗教同志会・湯浅八郎会長追悼の集い(三条)

28日 FMMの日本体験学習(同会約15名のアジアからの管区長団)ミサ司式。比叡山へ案内

29日 古屋司教の10日間経過の病状について医師団より説明を受く。

30日 国際宗教同志会委員会

31日 出席予定を取り消す

31日 司祭評常任委

31日 国際宗教同志会委員会

お知らせ

カルメル会 聖テレジア焼天四百年祭

今年10月15日から来年10月15日まで

全世界のカルメル会で記念祭を行います。

いずれ京都教区の皆さまもお招きして、ごいっしょに祈る日を持ちたいと計画しております。

カルメル会京都市北区大北山鏡石町一丁目

山田・宇津両教会 献堂25周年。

山田の名で知られる、京北町には、山

国・宇津両教会がある。ともに昭和31年

ます4月に宇津、11月に山田の献堂式を

祝っている。この両教会の特筆すべきは

昭和38年から3年間、ゴザレク師が山田

に専住された外、殆んど司祭が常住する

ことなく、信徒たちの手で守ってきた教

会だということである。山田教会の特異

な発足については時報昭和54年2月号、

芽ばえを読んでいただきたい。園部、衣

笠両教会の管轄下を行きかうことしばし、

今は衣笠小教区に属する。主の祝福を。



教区短信

▽12月1日(火) WORRC(東京) 京都教理センター理事会

小さい姉妹の友愛会(七条)

▽12月4日(金) C Ss R 代表K師との談会

▽12月6日(日) CBS集会(三条)

▽12月7日(月) 司教協機構検討委

▽12月8〜12日 司教協臨時総会(長崎)

▽12月24日(木) クリスマス・イブ

▽12月25日(金) キリスト降誕祭

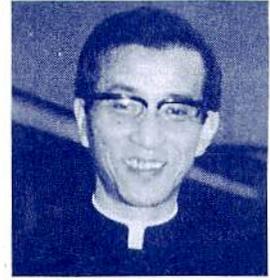
▽12月28日(月) 教区邦人司祭月例会忘年会

一九八二年

▽1月1日(金) 正月元旦。世界平和祈願日。神よりの賜である平和。

▽1月3日(日) 主の公現祭

▽1月4日(月) 教区内司祭修道士の新年懇親会ミサ



### 教区創立記念日にあたって

(創立記念日ミサの説教より)

京都司教 田中健一

本日、ここで、信仰の仲間である皆さんと一緒に、京都教区創立記念日、すなわち教区信仰共同体の誕生日を、過越の神祕を祝いつつ記念することが許されるのは、特に私にとって、この上もない大きな恵み、言い表わすことのできない大きな感激であります。

ちょうど九五年と少し前、私は思いがけなく京都司教の任命をいただき、この洛星高校の講堂において司教の叙階を受けました。今、その同じ場所で、叙階後初めて、教区レベルでのこのような一致の集いを体験させていただくことは、主における教区のみなさんが、本来の使命に一生懸命に精進しておられる、見えるしるしであり、大きな力強さを、神が私たちに示しておられるように感じさせられます。

い理解と協力と支援を示し続けてくださいました。心から御礼を申し上げます。もに、この間、私たちが神の国のしるしとして用うべく、皆さま方一人一人の中で働き給うた神のすばらしいみ業に、賛美と栄光を帰したいと思えます。

特に今回、曲がりなりにも教区ビジョン発表にまでこぎつけることができたのは、皆さまの中に働き給うた聖霊の賜物の結果であり、この二年余りのプロセス(過程)が、沢山の犠牲と努力と忍耐を要求しただけに、神の私たちへの強い関わり合いを痛感させられます。

今年一九八一年は、教皇ヨハネ・パウロ二世の訪日、その他恵み豊かな経験をいただいた年だと思えます。その教皇さまは、私たちの今日の集いをお聞き及びになり、慈父心あふれる祝福を送ってくださいました。

むずかしい現代世界の中にあつて、私たち一人一人に、聖なる父、神が与え給うた使命を、順境にあつても、逆境にあ

つても、大きな信頼と希望と愛の賜物をいただいて、少しでもそのご意志、ご計画にそつて生きていくことができるよう、みことばを味あわせていただき、ご聖体

によって養っていただき、相互愛によって成長させていただきたいものであります。



ローマ教皇庁國務長官

### アゴステイノ・カザローリ枢機卿様

からの祝辞

教皇さまは、教区創立を祝い、教区のいろいろなグループが一つに集まっていることをお聞きになり、京都にある教会に、心からおめでととおっしゃつておられます。

とのすばらしさへの、生き生きとした自覚が生まれることをお祈りになつていきます。そして京都教区全体が、言葉と行ないで、この自覚を示していくことを祈つておられます。

今までに積み重ねた検討と、これからの討議によつて、量り知れぬキリストの富への、また、キリストの弟子であるこ

そして、京都教区の皆さんを、教皇として、心から祝福してまいります。(写真提供 長崎フォト・サービス)



駐日ローマ教皇庁大使

### マリオ・ピオ・ガス・パリ大司教様

からの祝辞

田中司教様は、9月23日付のお手紙で、来る11月23日、教区創立記念日にあつて、司祭、修道者、信徒、またいろいろな活動グループが集まり、教区の集いが行なわれることを知らせてくださいます。

どうかお集まりの方々に、私も兄弟として喜んでいとお伝えください。ほんとうにうれしく思っています。一つの地域の教会のもつ活動の全エネルギーが、折りのうちに、牧者を囲んで一つに結集し、どうすれば司牧の仕事をより

# 各グループ決意表明

力強く、より効果的に展開できるかを探ろうとしています。

京都に着任された最初の日から、司教様は、教会の救いの使命のすべてを一人で担おうとはならないとお考えになりました。教会憲章が述べているように、信徒を導き、その奉仕と、受けている特別の恵みを認め、生かすという尊いご自分の義務は、すべての人がそれぞれの務めを果たし、心を一つにして一致協力しながら働くようにすることだとお考えに

なつたのです。(教会憲章三〇)

こうしたお考えだからこそ、極めて広い範囲にわたって協力の姿勢が生まれるようになったのです。11月23日の集いは、そのことを雄弁に物語っています。もう一度、教会憲章の言葉を借りるとすれば、人々はみな、それぞれ違った形で、キリストのからだがかほんとうに一つであることを証明していくのです。受けた恵み、行なう奉仕、また活動は、さまざまですが、そのこと自体が、神の子たちを一つ

に結果させます。こうしたすべてのことは、ただ一つの同じ聖霊のみ業であるからです。(教会憲章三二)

この集いの上に、主の豊かな祝福をお祈りいたします。私も、心からこの集いの成功を祈っているとお伝えください。すばらしい司教様の兄弟の一人として、キリストにあつて、祈りのうちに心を合わせております。

ビジョンを教会の中で語り合い、学び合い、信者一人一人の中で、身近にできることから実現して参ります。そしてやがて、教会をめぐる社会の中で、教区ビジョンの成果を実らせていく決意であります。

そのためにも、北部信徒の連携を密にし、教区との連携を保ち、互いに行く手を示しながら信仰と活動を積み上げ、教区ビジョンの実現に努力いたします。

## 滋賀県

### 信徒連合会

滋賀県の私たちは、かつて、ある種の戸惑いと不安をもって、ビジョン作りの検討に入りました。それは、個々の小教区でのビジョンへの取り組み方が、それぞれに異なり、滋賀県ブロックとして歩調を合わせられる状態ではなかったからです。

それでも、私たちは、本音と建て前が行きかう私たち自身の弱さ、教会の弱さを披瀝し合い、長時間かけての苦悩と反省をまじえて検討した結果、互いが、自らの。対話の不足。を認め、これを滋賀県共通の切実な問題として、ビジョンの中に取り入れることにしたのでした。そして、対話することによってこそ、愛が

11月23日、教区ビジョンが発表されるにあたり、ビジョン作りのまとめとして、各グループの決意が表明された。各グループそれぞれの立場でのビジョンの具体化が期待される。

## 京都府南部

### 信徒協議会

四百余年前にこの地に至り、私たちの祖先にキリストを示された聖フランシスコ・ザベリオの助けにより、私たちもまた、私たちが住む社会の中にキリストを見出すことができるよう、福音と宣教の實踐に努めたいと思います。そのため、

## 京都府北部

### 信徒連合会

京都府北部、十二の教会は、兄弟の教会として交流を深めてきました。北信連

教会共同体の刷新と連帯の強化、およびその中で相互教育とその普及の推進に、私たちがすべてが、それぞれの個性と能力とを捧げることができましように。

が結成されて以来、その結束は固く、さまざまな問題を分かち合い、互いに助け合ってきました。

北部の冬は長く、冷たく、そして冬の海は次第に荒れて参ります。岬にあつて、常に明かりをともし登台のように、私たちの信仰のあかしを示す神の導きに、先頭に立たれてビジョンの大切さを説かれた司教様。あれから三年余り、今日、私たちの中からビジョンが誕生しました。私たち北部十二の教会は、まず、この

深められ、愛あればこそ、対話は進められることを、私たちは深い反省の中から学ぶことができたのです。

私たち滋賀県ブロックには、共通の対話と折りの場として、安土セミナリヨをシンボルとする行事があり、共通の練成の場として、青少年練成会を持っていきます。これは、キリストの愛を持つが故に歩んだ、遠き先人の受難の道をしるぶせミナリヨであり、練成会は、次の世代を受けつぐ若者たちとともに、現代を語る

### 奈良県 信徒協議会

聖なる父よ、あなたは世を救うために御ひとり子を遣わされました。主キリストによって、あなたの民に選ばれた私たちは、教会を通し、京都教区としての一致のうちに、救いのしるしとなり、神の愛を伝える者となることができるよう、決意いたしました。

一、私たちは、御父を賛美し、すべてを捧げて神に仕え、キリストのみ業に協力する人が多く招かれることを願ひ、また、私たちの信仰がさらに強められるよう、絶えず祈り求めます。

二、私たちは、一人一人が関わり合う杜

機会であります。

私たちは、これらの共通の活動を、互いの対話の場として、今後とも、絶ゆまなく続けると同時に、教会が社会の中で歩むために、教会が主のみ旨にかなう刷新を遂げるために、まず、自らを刷新し、すべてにおいて基本となる、言葉と行動を通して、愛に満ちた対話を進め、教区ビジョンの実現に手のつけられるところから、具体的に始めていくことを決意したいと思います。

会のただ中で、そこに働き給うキリストを見出し、私たちのすべてをつくして、あなたをあかしいたします。

三、私たちは、隣り人をはじめ、世界のすべての兄弟に対し、特に、恵まれた人いや貧しい人々に対し、愛と平和を分かち合います。

四、私たちは、家庭を、愛にあふれた、祈りとともにする小さな教会とし、そこで信仰が育ち伝えられ、さらに福音の輪を広げていくからし種といたします。

五、私たちは、みことばを聞き、愛を世に示すことよって、次の代の人々に正しい信仰と、御子キリストにならった生き方を伝えていくことができるよう、努力いたします。

六、私たちは、互いに心を聞き、連帯感

を強め、教会における信徒としての役割を果たします。

神よ、私たちのこの決意を受け入れてください。そして、これを実践しようとする者に、力と勇気と健康とをお与えください。また、私たちの家族にも、あなたの豊かな祝福をお与えください。

### 三重県 信徒連絡協議会

私たち京都教区民は、教区のあるべき姿について、聖霊の光のもと、司教様はじめ、司祭、修道者の方々、私たち信徒が一つになって、この二年間教区ビジョン作りに取り組んできました。

そして本日、教区創立記念日のよき日にあたり、その成果を発表される段階に至ったことは大変喜ばしいかぎりであり、私たちの努力に報いて下さった主の御導きによるものと受けとめ、深く主に感謝いたします。

私たちは、その過程で、社会とともに歩む教会という今回のビジョンの大テーマを見出すことができました。この社会というものは、私たちが今まで考えていた聖・教会、俗・社会という対立したものではなくて、聖俗兼ね備えた、聖化されねばならない私たちが、そこに住む生き

た社会、すなわち家庭、職場、地域社会、国、世界をいうのであります。そして神様は、私たちキリスト者だけを救われるのではなくて、この社会に住むすべての人々を救いに秩序づけるべく生き、働き給うのであります。

私たちは、その社会に対して謙虚にひびきがかがめ、日々の自分の召されている場において、そこに住み、働き給うキリストを見出し、特に、しいたげられている人々、「弱い立場」にある人々とともに学び、支え合って、キリストとともに生きる平和と喜びを味わう恵みにあずかることができるよう、多くの祈りと聖霊の御導きを求めながら努力することを決意いたします。

日本古来の文化と伝統の中にある私たちの京都教区は、日本の歴史の中で、比較的聖霊の光に照らされて、恵まれた教区であると思いますが、本日発表される教区ビジョンを具体化し、実行に移していく私たちの決意と努力を通して、この郷土に真の福音が深く根ざし、神の国が実現されるように、すべての恵みと啓示の源である神、いつくしみを余すところなく伝える主イエズス・キリスト、すべての人々を誤りなく導き、助け、励まし給う聖霊が、深くより頼む私たちの行く手を照らし、導き給わんことをお願いいたします。

### 青年グループ

ビジョンの「青少年の育成」の項目では、私たち青年に対して、「大人の理想や望み、エゴイズムや先入観で鑄型に決めこんだような成長を押しつけていたなら、それを反省し、青少年の自覚性と自由を尊重した成長を助け、青少年の持っている可能性の豊かな発展を支えるべく、いろいろな努力をすべきである……」と言っていたいただきました。

私たち青年グループは、ビジョン作りの合宿の間ずっと、自分たちが自分の力で考え、悩み、行動することを暖かく見守っていただけてください、言い換えれば、私たちの主体性を尊重してください、と訴え続けてきました。そして先に引用したように、元青年、昔若かった人たちが、私たちの弱い叫びを受け入れてくださいました。その点に深く感謝します。

しかし、これで私たちの責任がウンと重くなりました。私たちは何もしないでただ何となく過ごすことのないようにしなければいけません。そのため、各教会の青年の間の連帯を強くしたいと思えます。そして、自分たちの考えたこと、行なってみたことを、よく反省・評価していかなくてはなりません。この集いを一

つの機会として、各ブロックの青年の連絡会を作りたいと思います。

ところで、このようにして考え、行うことを、私たちがどのように考えているのでしょうか。私たちの活動は、私たちの生活すべてです。教会の内外を問いません。また私たち青年各自でも、さまざまに考え、行動すると思います。活動の方向が、青年グループとしてどのようなものになるか、全く見当が付きません。しかし、次のビジョンを考える時には、何をすべきか、どのように考え、行なうとするかを、青年グループとしてはっきり言えるようにしたいと思います。その時には、今回のような、どちらかと言えば「与えられるビジョン」ではなく、私たちが同等に参加したビジョン作りをしたいと思えます。

### 諸活動グループ

私たちは、キリストに導かれ、キリストに結ばれた者として、キリストにならって生きていこうとしています。

そして今、私たちは、能率化されていく社会の中にあって、すべての人が人間としての尊さを失うことがないように、またすべての人が肉体的な苦しみや精神的な悩み、そして環境における圧迫に留

まることなく、人間としての尊さを高めたいことができるように助け合い、励まし合い、またキリストを知らない人には、キリストの光を見出すことができるように日々それぞれの場で働いていきたいと思えます。

そのために、神よ、私たちの信仰を強めてください。あなたからいただいた賜物を、惜しみなく人々に分かち合い、互いに奉仕していくことができますように。

### 修道女連盟

京都教区に在住する私たち女子修道会

会員は、今、教区のビジョン宣言をするに際し、教区の一員として、また神に奉獻された者として、それぞれの修道会固有の目的と使命を果たしつつ、「社会とともに歩む教会」の実現のために、日々の祈り、使徒的活動において、キリストに従い、その精神に生きようと、決意を新たにしております。

この実践にあたっては、自らの回心と刷新の恵みを主に願い、キリストにおいて結ばれた私たち、本教区の兄弟、姉妹は、共通のビジョンのもとに、キリスト共同体を築き、魅力のある教会となつて、社会にキリストをあかしてできるよう努めます。

私たちは、現代社会のあらゆる階層の中に、出来事の中に働かれる神を探し求め、そのみ旨を知り、必要とされるところへ、人々のために、祈りと積極的な奉仕活動をもって、献身することを表明いたします。

### 司祭修道士グループ

私たち京都教区司祭修道士は、教会が、自分自身のあるべき姿を再確認し、現代社会とともに歩むことができるように、自分を新しく作り変え、真に福音の姿を目指すよう努力いたします。

また、私たちは、自分もその中で生活している現代社会の実態を正確に把握し、その社会が真に何を必要としているかを正確にとらえ、それらに福音の精神をもつて応えていくべきであると信じます。したがって私たちは、信徒と協力して、社会にあるよいものを発見し、これを伸ばし、発展させるべきことは言うまでもありません。同時に、社会的不正義や社会悪が存在すれば、勇気をもってこれを指摘し、これと闘い、愛と正義に満ちた社会を実現するよう、全員一致して努力いたします。

20年前前、日本語学校で、ある先生は生徒に聞きました。「愛と云う言葉の意味は何でしょう」いろいろな答が出ました。私に一番ピンときた説明は愛と云うのは、「相手を大切にすること」イエズスの言葉に因ると、「何事でも自分にして貰いたい事は他の人にもその様にしない」マタイ・7・12で「なだでも自分を愛し、大切にしたいと願います。隣人を自分の様に愛する事は難しく、好きな人は愛せるが、好きでない人を愛するのは本当に難しい事です。滋賀県の日野町には80人程のベトナム人が住んでいます。他国から来た彼等を私達は歓迎するべき



愛・大切にすること

ですが、私を感じたことは一時的に歓迎するが、それは長くつきません。幸に難民の人達は始めて日本に来た時、カリタスジャパンを通じてカトリック教会の皆さんが援助等をしてあげましたけれど、京都教区の私達に充分に心を開いたでしょうか？ 私達は彼等を訪問する事や、他の国に行けず、日本に在住しなければならぬ難民の人達を自分の社会、会社、学校、家庭に歓迎するでしょうか？ 「自分にして貰いたい事は、ほかの人にもその様にしない」これはイエズスの命令です。この命令について反省致しましょう。 ライリー神父（草津教会主任）

小教区の頁草津教会



草津教会は、昭和32年4月21日復活の大祝日に創立された。教会の建物は昭和30年春に着工され、司祭館と現在残っていない日本家屋、それに聖堂が建てられた。開拓時代の苦勞話としては、当時上水道がなく地下水を汲み上げていたが、水質が悪いので濾過して使っていたことである。見た目はきれいでも鉄錆が多く、その水で洗濯すると赤褐色に染り、落ちなくなる始末であった。

さて、最初の建物が立つ少し前より、メリノール会のパロン神父が京都から時々来られ、布教の地下作りをされた。そして、前記復活祭に古屋司教様によつて献堂式が盛大に行われた。県知事、市長をはじめ市の有力者数十人も招待され、一般市民にも披露されたのである。その後パロン神父様は、病氣のため半年足らずで帰米され、後任はワルナー神父様になった。その頃の信徒は、草津病院のシスター、職員とその家族、入院中

受洗された方々、その他ごく少数であった。ワルナー神父は9年間の在任中、信者会を作るよう提唱され、大人の教理研究グループを作り、土曜学校、日曜学校を設け、英会話教室を開くなどして活躍された。また幼児教育の必要と遠大な布教計画のため、39年4月10日草津カトリック幼稚園が開園された。園児11名で発足したが、現在は200名近く在園中である。その頃、布教と幼児教育のためノートルダム教育修道女会から数人のシスターが来られ、伝道士、伝道婦とスタッフが増え、教勢も伸び始めた。更に幼稚園も鉄筋コンクリート二階建の現園舎が建てられ、着々と飛躍していった。

ワルナー神父様後、スミス神父が赴任され、信者の隣組制度を始められ、ボーイスカウト、ガールスカウトも誕生した。そして、今年の11月1日には発団15周年を祝う喜びを得た。

スミス神父様は2年半で一時期帰米され、後任にはマルチン神父様が来られ、約3年でマルチン神父様へと移りかわった。その頃小教区の信徒は、主任司祭が交代すればいろいろと方針も変わり、とまどう時期となつていたようである。その後49年に現主任司祭のライリー神父様を迎えた。現在、草津小教区は第二バチカン公會議の精神に則り、信徒が、使徒職への参加、教会の自主独立のため経営、経済の手伝い、会計の担当等をしている。信徒一人ひとり、草津、甲賀、野洲、守山、近江八幡地区等で子供の要理教育はもちろんで、大人の聖書研究会に進んで参加し、

聖書の分かち合いによる靈性の向上をはかっている。またマリッジ・エンカウンターやボランティア活動への参加、家庭ロザリオ会等を各地区ごとに行っている。信徒による「みことばの祭儀」も、他に先がけて早くから行われていた。さらにベトナム難民（日野町在住）信者約40名のために彦根教会と交替でミサが現地できざげられ、難民の方々の交流も活発にされている。

教会の恒例行事としては、まず復活祭とクリスマスのお会食パーティーがある。昔はお寿司や赤飯が炊き出されたが、今では各家庭から持ち寄ったものを分かち合っている。それから、社会福祉と施設補修、信者会活動費捻出のため、秋にバザーを行っている。その他、敬老会の行事などもある。



今、草津教会は創立25周年の祝いを終えたばかり、また甲南地区に甲賀教会の創立を祝った。信徒数500名、主日のミサ出席者数は200名を越えるこの教会は、京阪神のベッドタウンとして転入者も多く、今後益々発展が期待される。すでに昇下最大となったこの教会には、この秋待望の助任司祭マッコリー神父を迎え、一段と活気づいている今日この頃である。



「中国」見て歩き

藤堂 隆

8月21日から31日まで一台風十八号の影響による便の欠航のため9月2日伊丹着一京都洛星訪華団の一員として中国を訪れる機会に恵まれました。広大な中国、そのすべてを見たわけではなく、北京・西安・洛陽・鄭州・上海と華北の古都めぐりをただけで、「中国」見て歩きな

私待っておったのでございませう。重い冬の夜が去って、明るい暖かい春の朝が来ますことを、私よくわかるような気がする。喜んで、「ラボニ」とささやいて主のみ足にすがった時のあの得も言われぬ平安に満ちた喜びを。「これから私生きていけるんだわ。喜び満ちて生きているに満ちて生きていけるんだわ。私のあの過去の暗い日々の生活をあの方は追払ってくださったのですもの。」

地上にお住みのみなさま希望に満ちた旅立ちをなさいます。みなさまには、

どと題するものも、おこがましい気持ちです。万星の長城をはじめ有名な史跡を見て歩きしましたが、やはりこの時報には中国天主教会事情を報告させていただこうと思います。

まず、ご存知の方も多からうとは思いますが、カトリック新聞等で報せられている一般事情を簡単にまとめ、ついで北京でのミサ、上海での聖体訪問をするします。中国では解放後、始めのうちは宗教の弾圧があったようです。その後、すぐ、一定の枠内でその活動はゆるされるようになりしました。確認はしておりませんが、総人口十億の一パーセント、日本より比率は高いのです。カトリック教会に關して言えば、ローマ聖座が、かつて、欧米諸国の植民地政策と深いかわりを

愛と希望、信仰と光に満ちた太陽の光があなた方を導き、夜とて、明るい月と美しい星々があなたがたの行く手をさし示してくれましょう。でも余り浮き足たないで、私達の住んでおります大地をしっかり踏みしめなさい、野に咲く小さな草花、誰からも注目

されないうなかれんな彼等にやさしいお目をかけてくださり、かれらが陰ながら、いかに世の美しさを支えていますか。そのことをお忘れになりませんように、口はほつたいようでございませうが、お願ひ申し上げます。ああそれにもう一つ

重き夜に来王告ぐるときの声

持っていたこの中国政府当局の判断によってパチカンとの縁を切ることが要求され、それを受容した教会が、いわゆる愛国協会として活動を認められたようでもあります。この愛国協会というのはカトリック新聞の表記で、私がいかにこの目で見た教会の看板には天主教愛国派と書かれていました。天主教とは中国語でカトリック教のこと、ここから何い知ること、自分達はカトリックであるが、

国の政策に従う一派だという考えではなからうかということ。われわれからすれば、秘密に言えば、聖座との関係を絶てば離教ということになります。この問題の円満な解決が得られることを心より祈らずにはおられません。教皇様が二月に来日される前に、フィリピンで、中国訪問の希望をもちされたことも

道ばたには枯れしほみそうになっている弱い花、無残にたおられたり踏みじられそうになっている草花もございませう。かれらも自分の与えられた生命と使命に精一杯生きようとしているんでございませう。こういう言い方をしますと、何かあのような花々をあわれんでいる様で、あわれむということは一見美しくみえて、上から下へという高ぶりを感じられるかもしれないでも決してそうではないんでございませう。かえってこの花々が世界で一番大切なものだと言わせてくださいませ。これからの行く手にはいろいろ困難もございませうが、互いに励まし合い助け合われましてすばらしい歩み遂げられま

すようお祈り申し上げます。(Tモグラ)

周知のことです。その後、広州の司教をパチカンが任命したことで、目下は少しぎくしゃくした関係にあります。こういった問題については、幸か不幸か、言葉や時間の関係で私が出会った中国の司祭達とは話すことが出来ませんでした。次号で北京でのミサの様子をお知らせします。



ひとこと

◎時は春。小川に手を入れてみたら、とても冷たかった。そんな中に小さな黄色い花を見つけました。金魚草というのだそうです。冬でも花を咲かせているというその花が一度に好きになりました。強い生命力を感じました。厳しい冬にも咲くその花にならいたいと思つたのです。

今、ひとつの生命が散りました。白い可愛い花の命を生きようとしていた彼女です。散らない花はない。朽ちない生命はない。神が与えて下さった尊い生命の花を慈しむ育てましょう。(K)

# 小さき者よ 国際障害者年に思う 〈最終回〉

聖ヨゼフ整肢園・家森 百合子

私たちの聖ヨゼフ整肢園には、未熟児・仮死・新生児重症黄疸と言った新生児期異常や、そりかえりやすい、手足を固くしやしい、向き癖が強い等乳児早期の異常徴候を示した赤ちゃんが、乳児健診を受けた後、発達障害の疑いで紹介されて来ます。そのような赤ちゃんの中で訓練を必要とする赤ちゃんのお母さんは、理学療法士から訓練の

つても障害を残している子供は、通園部に母子で週三回通い、訓練と保育の両方を受けることとなります。このような大変な努力は、少しでも障害を克服して健常児の中へ入れたいという一念に支えられているのです。

人は自分に与えられた能力を充分に発揮でき、自分の個性が人々に受け入れられた時、喜びを感じ意欲を持って生きて行くことができます。能力や個性と言ったものは、自分の努力によって変化させられるものではありませんが、元来は与えられたものです。障害も多くの場合、好むと好まざるとにかかわらず与えられたものなのです。このように考えると、障害はその人の個性と言えないでしょうか。それを乗り越え、自らを成長させるきっかけとして与えられた個性のようなものと言えないでしょうか。

ところが一般に障害は、人生の障害物として幸せを妨害するものと考えられがちです。そのために障害であることを嘆き、障害の診断を受けた時、目の前が真暗になってしまいます。でもよく考えてみると、障害であろうとなかろうとその人はひとりの人間であり、かけがえのないその人だけの人生を歩もうとしていることは間違いのない事実です。同じ人生なら、障害を克服し、あるいは障害を活用して堂々と歩んでいくことが許されているはずなのです。ところが現代の社会は、よりよい業績を残す者を選び、その生存を許す傾向を持っていて、障害者はその業績の悪さの故に、能力を充分に育てた

り発揮したりする場所をなかなか与えられません。それは保育園や幼稚園の時期から始まっているのです。そこに入園させてもらえる障害児がごく一部に過ぎないという現状を見る時、本当は、幼児期から障害児と健常児が互いに付き合ひ慣れておくことが、将来の社会において障害者への偏見をなくす手始めになると思うのですが……。

またリハビリテーション（ハビリテーション）医学は、障害者が障害を克服する方法を研究する領域ですが、現在は医学の中でも支流に属し、そのみを専門にする医者がまだまだ少ないのが実態です。理学療法士、作業療法士、言語治療士、看護婦、ソーシャルワーカー、心理判定員、教師、保母等の多くの専門職も充分ではありません。

国際障害者年の催しをきっかけに種々の専門職を知った若者の多くが、この領域に入って来てほしいと思います。ひとりひとりの障害者の努力を知った人々は、障害をその人の個性として受け入れ、大きな荷物を背負っている人に道を開け、席を譲りながら、その人なりの人生を意欲を持って生きて行ける場所を開けてあげてほしいと思います。生まれてからすぐ障害を克服しながら生きること運命づけられた子供たちと家族に、その努力の

日々々に報いるに充分な未来を用意してあげてほしいのです。国際障害者年の最後にあたり、今年が障害者の明るい未来への出発点になるように祈りながら……。

（小児神経科）



時報が対話 おう！書く  
の手段なら 者も読む者  
は「互い」に も、投稿者  
心を開けあ も編集者も

- ◆人が精一杯語ってくれたことを文章にするってことはなかなか大変。その真意をできるだけ尊重しようとする心が痛みます。原稿をまとめた時の十字架です。生みの苦しみ、復活への熱望（MT）
- ◆今日は、と74号で挨拶したばかりなのにもうお別れ。教区の広報活動に参加できた恵みを感じ、ビジョン作りとか種々の記事に触れ、京都教区民として目覚めた私であります。ではサヨウナラ。（K）
- ◆教区一致の集いの準備、ウオカソン募金の整理、時報の編集……。ちよつとデスクの上をご想像下さい。でも神様、あなたと共に働く喜びノタマラナイ。（Y）
- ◆昨年12月号の開心に減量のことを書いた。さて、1年立って……ああ、ボクはなんて意志の弱い人間だろう。自己嫌悪でやせることができれば。（亜）
- ◆き氏は、誤合ならぬほんまものピズネスに東奔西走！師も走りたまう月であれば、ピズネス、き氏を走らせる。一九八二年は、き氏のお力を借りたのですな黒子）
- ◆始めよければすべてよしのことばと共にこの81年新風を吹きまくった紅顔のJ事瓜生和彦君ご苦勞様、J君いつも編集諸子に、刷新することを教えてくれました。教区時報編集への奉仕を感謝します。

本紙を福音宣教に役立たせるため、ご近所、お友だちにもお見せ下さい。